

志貴の精霊相撲^{しょうろうすもう}

【日 程】 8月16日

【場 所】 西光寺

【参加者】 志貴自治会5組の住民（当番の組が中心に行う）
志貴と近隣の子どもが取組みに参加



詳しい作り方は
こちら

志貴の精霊相撲は、盆の送り火にあたる8月16日に志貴自治会により行われます。自治会によれば、起源は江戸時代中頃といわれています。この日は、^{しょうろうおく}精霊送りや^{ひやくまんべん}百万遍（地域の人が集まり^{じゅうず}数珠をくりながら^{ねんぶつ}念仏を唱える）も行われます。

土俵は行事の当日に作られます。土俵中央に砂山を作り御幣を立て、四隅には竹を立てて「四隅の幣」と呼ばれる御幣が取り付けられるのが特徴です。この御幣は安産のお守りとして、相撲が終わると出産を控えた女性に配布されます。

相撲が行われる前には「^{もはんずもう}模範相撲」と呼ばれる行事があります。これは小学6年生が土俵中央に向き合って立ち、互いの肩に手をのせ、東、西の順に押し合います。この動作を2回繰り返し、最後に東方が西方を押し出します。

その後、勝ち抜き戦が行われ、志貴に住む小学校高学年の「三役」（小結、関脇、大関）が対戦します。結びの一番で勝った大関は、御幣を持ち土俵中央で^{しこ}四股を踏みます。



取り組みの様子



大関による御幣を持つての四股

*この内容は平成30年(2018)度実施した映像記録事業での聞き取り調査や過去の調査資料をもとに作成しました。内容が変更になっている可能性もあります。

キーワード：伝統行事、風習、相撲、志貴、西光寺